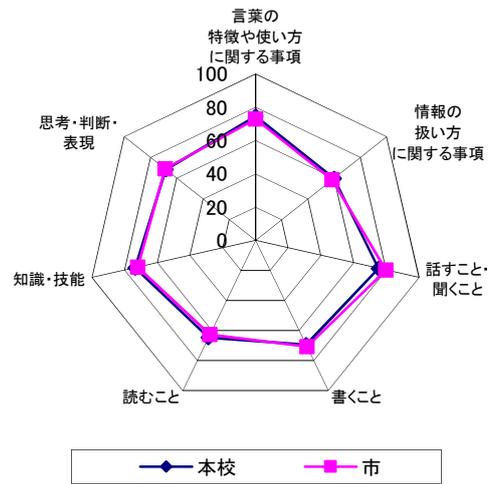


# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	59.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	75.2	79.8	75.9
	書くこと	69.4	70.7	71.7
	読むこと	64.7	62.8	62.5
観点別	知識・技能	73.6	72.0	74.4
	思考・判断・表現	68.4	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

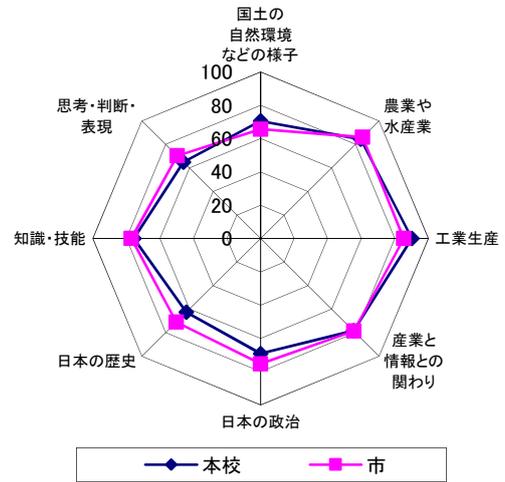
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市とほぼ同率であった。 ○第6学年配当漢字は、市の平均とほぼ同じ正答率であり、基本的な漢字の読み書きについては定着してきている。 ●同音異字、敬語の問題では、正答率が市の平均を下回った。敬語については、尊敬語と謙譲語の違いにおいて課題が見られる。	・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習、既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努めていく。 ・漢字の応用的な活用の仕方を学習に取り入れ、文意に沿った漢字や熟語を判断できるようにする。 ・敬語については、敬語を使う相手が誰なのかを明確にする学習を繰り返していき、尊敬語と謙譲語の区別ができるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市とほぼ同率であった。 ○資料から読み取ったことを文章にするために、必要な情報と不必要な情報の判断ができるようになってきている。	・資料から必要な情報を抜き取り、活用する活動を様々な教科で取り入れることで、情報の取捨選択能力を身に付けられるよう、継続して指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比較して4ポイントほど低い。 ●計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を捉える問題の正答率が特に低かった。また、話し合いの内容を記述する問題では、内容が不十分な回答が見られた。	・話の要点が何かを捉えられるよう、目的意識をもって話を聞くことの大切さを継続して指導していく。 ・話を聞くときのメモの取り方や、理解したことをまとめる力を養いたい。聞き取りのみならず、文章を要約したり、自分の言葉で言い換えたりする学習を、繰り返す。
書くこと	平均正答率は、市とほぼ同率であった。 ●指定された長さで文章を書いている児童の割合が市の平均を下回り、また内容については自分の意見と根拠や反論を明確にして書くことに課題が見られる。	・資料から必要な情報を読み取り、その内容を自分の言葉で要約する活動を行う。また、読み取った内容から考えたことを表現する活動を、様々な教科で取り入れていく。 ・作文の学習では、自分の意見に対する根拠や具体的な事例を明確に区別して書くことができるようにし、より説得力のある作文が書けるよう支援する。
読むこと	平均正答率は、市を若干上回った。 ○説明文の読み取りについて、どの問題においても市の平均を上回り、また昨年度と比較しても、正答率が高くなっている。 ●物語文の読み取りでは、登場人物の様子を捉える問題において、市の正答率を10ポイントほど下回っている。また、文章表現の効果についての確に捉える問題においても課題が見られる。	・説明文の読解では、文章全体の構成を考える活動をしっかり行い、筆者の考えの中心がどこかを的確に捉えられるように継続して指導していく。 ・物語の描写の効果を再度確認し、背景描写から登場人物の様子や心情に近づく学習活動を丁寧に行う。また、読書活動を励行し、読解力を高めるとともに、語句の持つ様々な意味を日常的に理解できるようにする。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.6	65.7	67.0
	農業や水産業	84.3	86.1	77.5
	工業生産	90.2	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	78.4	78.6	69.6
	日本の政治	69.1	75.2	65.8
観点別	日本の歴史	62.5	71.1	69.1
	知識・技能	75.5	77.0	72.8
	思考・判断・表現	65.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

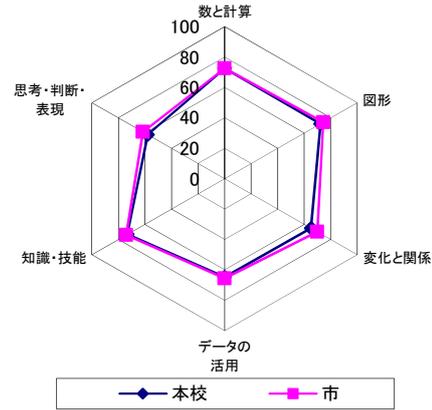
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の周辺の海洋名を理解したり、雨温図から都市の位置を考え判断したりすることができている。 ●森林を守る間伐を行う理由について問う問題では、市の平均より低かった。身近な職業ではない林業に対する理解が低かったと考えられる。	・日本の国土や領土について、地図帳や地球儀を活用したり、歴史や日本の周辺国との関係を踏まえたりしながら学習する。 ・身近な職業としてとらえることが難しい林業に対して、デジタル教材や図書資料などを用いて理解を深められるようにする。
農業や水産業	○米づくりの手順を正しく理解することができている。 ●図とグラフから、ほ場整備の意義について理解し、文章中に当てはまるように自分の言葉でまとめることができなかった。図やグラフから整備前後の変化を読み取ることが難しかったと考えられる。	・グラフの読み方を授業で抑える。 ・自分の言葉で説明文を書かせたり、まとめさせたりして、理解を深める機会を意図的に設ける。
工業生産	○電気自動車とガソリンカーの違いを理解し、環境に配慮された自動車のメリットについて理解することができている。	・複数の資料を読み取る力を身に付けさせる。 ・持続可能な社会を目指した取り組みについて、理科の授業や自分の生活と関連させて考えさせる。
産業と情報との関わり	○情報産業の責任や役割について正しく理解することができている。 ●情報の正しい受け取り方についての問題で市の平均を下回っている。選択肢の文から間違いを見付け、正しい回答を導き出すことが難しかったと考えられる。	・情報モラル教育と社会の情報を関連付けながら判断ができるようにする。 ・選択肢の間違いに目を向けさせ、正しい解答を選択できるようにする。
日本の政治	○日本国憲法が定める天皇の地位について正しく理解している。また、国会の働きについて、内閣と裁判所の働きと分けて理解することができている。 ●実際の生活に置き換えて、義務と権利の違いについて正しく理解することができていない。また、三審制の意義や仕組みについて理解することができていない。	・義務と権利の違いについて、具体的な場面を通して学べるよう工夫をする。 ・他の用語と混同しないように振り返りを重視する。
日本の歴史	○前方後円墳の分布の説明を地図から読み取ることができている。藤原氏が力を持った理由を理解することができている。 ●歴史上の人物が行ったことや文化の特徴について、正答率が低かった。室町時代の文化と現在の生活を結び付けて考えることができなかった。	・新聞づくりなどを通して、人物についての大まかな知識を身に付けさせる。 ・大まかな時代の流れを映像教材を用いながら確認させる。 ・文化の特徴を理解し、現在の生活と比較させる。 ・写真資料を用いて、関連付けができるようにする。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.5	72.6	71.6
	図形	72.3	74.4	72.0
	変化と関係	65.1	69.8	62.6
	データの活用	64.7	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.2	74.1	68.9
	思考・判断・表現	58.0	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

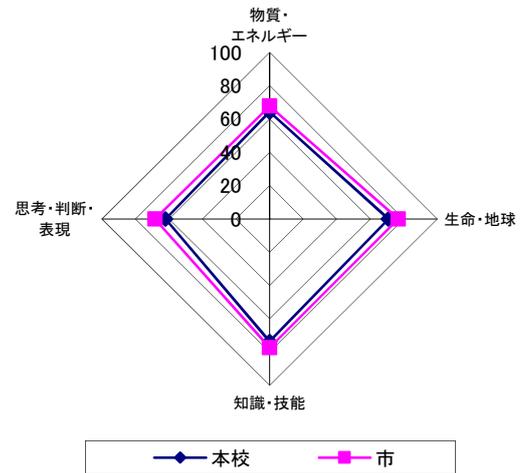
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○計算については小数の乗法を除いて、平均正答率が市の平均を上回っており、基本的な計算力は身に付いていると考えられる。</p> <p>●問題の文章や図に合った式を選ぶ問題について、平均正答率が市の平均を下回っており、本校の苦手な傾向が続いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き基本的な計算の力を身に付けられるよう、朝の学習、少人数指導等の時間を活用して、継続して指導していく。</li> <li>図で表したり、説明したりする活動を繰り返し行い、数量関係を正しく図や式に表す力を育てる。</li> <li>下学年から問題を図で表したり、説明したりする活動を十分に行い、積み重ねていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題、三角形の内角の和が<math>180^\circ</math>であることから2つの角が与えられた三角形の1つの内角の大きさを求める問題で、平均正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>●台形の面積を求める問題、正八角形の作図方法から円の中心のまわりのできる角の大きさと正八角形の1つの内角の大きさを求める問題で、正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積を求める公式を確認すると共に、公式を導き出した方法等についても確認し、公式の暗記にとどまらず、公式の導き出す場面に十分に指導する。</li> <li>教科書に出てくる問題以外にも、様々な出題形式の問題に触れさせ、活用する力を育てる。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●図から面積と人数の割合を求め、どのシートが最も混んでいるかを考察する問題の正答率が低い。</p> <p>●道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題、同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから弟が走る距離を何mにすればよいか判断する問題の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をじっくり読み、問題の意図を正しく理解して課題に取り組もうとする力を育てていく。</li> <li>道のり、時間、速さの関係、面積、人数、密度の関係等の3項目の関係について、日常生活と関連付けるなどしながら、実感を伴った理解ができるように指導していく。</li> <li>答えを見積もるなど、見通しを立てて問題に取り組む習慣を身に付けさせる。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>○度数分布表の空欄に当てはまる数字を解答する問題、棒グラフから読み取れることを選ぶ問題の正答率が高かった。</p> <p>●最頻値を選ぶ問題の正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き慣れない用語が多数出てくるため、それぞれの用語について、丁寧に確認する。</li> <li>社会科等他教科の学習資料や新聞などを活用して繰り返し確認することで理解を深め、活用する力を育てる。</li> <li>日常生活と関連させながら、データの活用の有用性や必要性についても理解を深めるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.2	67.8	64.1
	生命・地球	70.9	76.7	78.3
観点別	知識・技能	73.7	77.4	78.3
	思考・判断・表現	62.0	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「物のとけ方」のろ過の方法や、「物の燃え方」の実験で得られる結果や推測できることを理解していた。</p> <p>●「ふりこのきまり」や「電流のはたらき」などで正しい答えの組み合わせを選択する設問の正答率が低かった。知識が曖昧で、完全正答ができていなかったとともにあまり見慣れない問題形式に戸惑ったことも考えられる。</p>	<p>・児童たちが五感を使って身近な不思議を体験できるように、今後も実験機会をしっかりと確保する。</p> <p>・既習事項の知識を定着させるためにプリントを活用したり、様々な形式の問題に触れさせたりすることで、抵抗感を取り除けるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>○「天気の変化」で台風接近中の不適切な行動を指摘する問題を理解できていた。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」や「生物とかんきょう」の問題に対する正答率が市の正答率よりも下回っているものが多かった。具体物进行操作できず、可視化しにくいため理解が不十分であったり、自然に親しむ環境が少ないことが考えられる。</p>	<p>・デジタル教科書等の映像資料を利用し、少しでも身近なこととして結び付けて興味と知識を得られるように努めていく。</p> <p>・教科書の中で、主に各単元の終わりに記載されていることの多い記事にもしっかり触れさせることで、生命や地球に関する知見を広めていく。</p>

## 宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる授業の展開</li> <li>・振り返りの時間の確保</li> <li>・効果的な指導形態の工夫</li> <li>・モジュール学習の充実</li> <li>・家庭学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上への質問で、授業が分かると答えた割合がどの学年も市の平均よりも高かった。</li> <li>・家庭学習の時間について、どの学年も市の目標時間を上回る時間取り組んでいる児童が多かった。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力の育成を図る指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いをもつための書く活動の充実</li> <li>・発問及び活動の工夫</li> <li>・伝え合う場の設定</li> <li>・進んで伝え合う活動の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グループなどでの話し合いに自分から積極的に参加していますか」の質問に対する肯定割合は6学年中4学年で市の平均を上回った。また、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の質問に対しては、学年差や個人差がある。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・引き続き、各教科の基礎的・基本的内容の定着を図りつつ、発展的な課題にも積極的に取り組ませていく。
- ・家庭学習については、強化週間等の取組を継続しながら、内容の充実にも取り組んでいく。
- ・話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習を工夫し、ものごとをいろいろな視点や立場から考える力をはぐくんでいく。